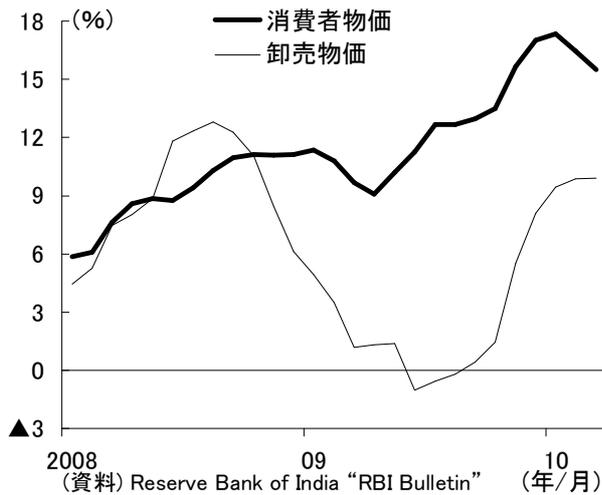


## 本格始動するインド経済

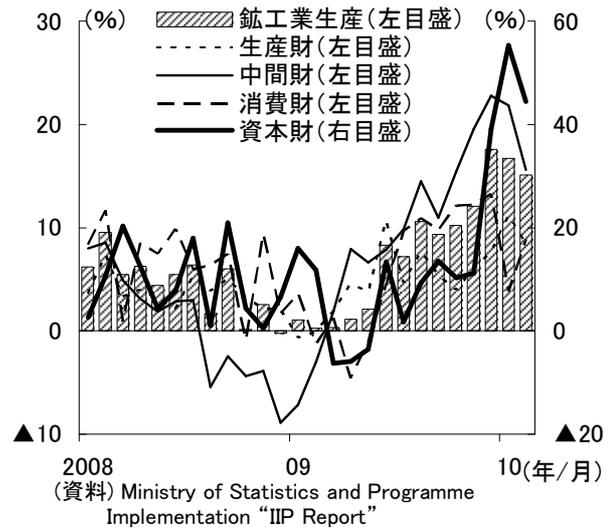
～ 後進地域でも成長エンジンに点火 ～

- (1) 4月20日、インド準備銀行は3月19日に続いて今次景気回復期2度目となる政策金利の引き上げを実施。騰勢鈍化の兆しが出始めているものの、依然として物価がハイペースで上昇していることが主因（図表1）。ちなみにムカジー財務相は中立的政策金利に戻る時期と指摘。
- (2) しかし根底には、経済成長メカニズムが本格始動し、高度成長が視野に入ってきたという情勢変化。まず生産動向をみると、2009年12月に前年比17.6%と既往最高の増加となった後、本年1月に同16.7%増、2月15.1%増と大幅増勢が持続（図表2）。財別にみると、好調な乗用車販売に牽引された消費財や中間財より、資本財の増加が際立つ展開。投資が投資を呼ぶ高度成長メカニズム始動の兆し。
- (3) さらに地域別動向の視点から各州電力消費量を増加寄与度の大きい順にみると、チェンナイを中心に新たな自動車生産拠点となったタミル・ナドゥ州、湾岸諸国に隣接する地の利を生かした石油製品の生産拠点のグジャラート州、ハイデラバードを筆頭にIT拠点のアンドラプラデシュ州等、これまでインド経済をリードしてきた諸州に加え、貧困地域として長らく政府支援に依存してきた西ベンガル州やビハール州でも、次第に寄与度が拡大（図表3）。ヒマラヤ近郊など一部地域を除き、ほぼインド全土にわたり自律的成長メカニズムが始動。

(図表1) 消費者・卸売物価の推移(前年比)



(図表2) 鉱工業生産の推移(前年比)



(図表3) 州別電力消費量と人口

